



岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内

岐阜県博物館協会

TEL 0575-28-3111

振替名古屋637909

輪中の里 私設博物館の課題

片野記念館館長 片野知二



県の南西部を流れる木曾・長良・揖斐三川が指呼の間を保って南流する辺りは今では濃尾平野の豊かな穀倉地域であるが、この肥沃な大地もその昔は、三川の氾濫による水害に苦しみ続けてきた。

そこで、洪水から集落を守り、安全な生活環境を築くための自衛策が、集落の周囲に堤を廻らし洪水に備えることであった。このような囲堤集落を輪中と呼んだ。つまり、形態的には外水を堤防で遮断した孤立した集落である。また、機能的には水と闘う運命共同体である。故に、水防に対する協力心は強く、連帯意識で結ばれた地縁社会が形成されたために、輪中毎に孤立化する傾向を持っていた。この地縁は血縁より優先し「嫁の在所と義絶になろうと株井戸ゆえに是非がない」という俚謡も生れた処である。

このような輪中地域には、おのずと輪中文化という独自の生活文化が育った。あげ舟、掘り田、田舟、どろこ田植、株井戸、定杭、水理慣行、あげ仏壇、水防小屋、水屋、助命壇等々である。これらは、祖先が水との闘いの中で創り出したくらしの知恵である。

しかし、輪中も明治の三川改修工事の竣工以降、治水事業の充実と農業の近代化の進行で、80有余あった輪中の歴史的景観や生活慣行の変貌、消失が急速に進んだ。

そこで、昭和46年5月に江戸時代に四囲2.5mから5mの高さを石垣で築いた高台、お

よそ3000㎡のいわゆる助命壇屋敷に遺存する嘉永7年(1854)建築の納屋倉を資料館に改装し、オープンしたのが輪中歴史民俗資料館なのである。資料館開設の意図は、祖先から受け継いだ輪中の治水資料、民俗資料、庶民資料、郷土文人の遺墨、郷土史研究参考文献等々を公開し役立てたい一念にあった。わけても、教育現場の学習課題である「低地のくらし」の社会見学の一助にと子どもたちや指導者に対する資料提供の思いを込めての開設であった。

展示物は、大別すると次のようである。

- ① 宝暦治水工事を始め、輪中の開発に尽した人々の顕彰資料、輪中の古絵図、治水工事に関わる文献等
- ② 宝暦治水に関わる遺跡写真、四郷遺跡出土の弥生式後期土器、縄文海進期の貝の化石、教育関係資料、灯火器具、家蔵の美術品等
- ③ 輪中の農器具、生活用具、民具、漁具、養蚕具等

顧みるに、開設して四半世紀が過ぎたが、昨今各地に立派な輪中歴史民俗博物館が設立され、当館の当初の目的も一応果たしたものと思うが、資料館と生活を共有している特色を生かし、つぎのことに留意しながら、輪中の伝承文化の語り部として経営につとめたい。

- 地域の河川と水、川と人との関わり方を深める資料の提起を考える。
- 学校、社会教育面での利用を積極的に進め、資料の貸し出しに便宜をはかっていく。
- 先人の偉業の顕彰と自然に対し畏怖の念を高める広報活動を重視する。

平成11年度 東海地区博物館連絡協議会

「日本博物館協会東海支部総会に出席して」

日時：平成11年7月8日(木)～9日(金)

会場：山梨厚生年金会館

参加：81名

甲府市山梨厚生年金会館において、神奈川、静岡、愛知、岐阜の5県から81名（本県からは9名）の会員が参加して行われました。（協議会会長挨拶）



会長の濱田氏

会長である山梨県美術館長の濱田隆氏より、「山梨県では都市生活から休息を求めてくる人々の空間をつくる総合博物館が必要とのことから県立総合博物館構想が発表された。財政厳しい折ではあるが、この機会をのがさないようにしたい。また、郵政省、通商産業省が関係する情報システムを構築して県民情報プラザを作り、美術館の情報を公開したいとも考えているが、財政事情が悪いため実現が難しい。国立博物館等の施設が独立法人化されていくが、地方への影響もあるだろう。協会としての研究はできないものか。」との話がありました。（来賓祝辞）

日本博物館協会専務理事五十嵐耕一氏より、平成13年4月から文部省は文部科学省となり国立博物館等は独立行政法人になるが、現在抱えている問題として、公立博物館の多くはリニューアルの時期にきていること、民間の館は不景気により親会社からの援助がなくなって苦しい時期を過ごしていること、全般に入館者が減っていること等の話がありました。

また、山梨県教育委員会杉浦初男氏からは、完全週休2日制が普及するにつれて心のゆとりと潤いと質の高い生活が求められる中、博

物館等は機能を充実させて民間企業や地域の住民が文化的活動ができるようにコーディネートをしなければならないとの話がありました。（表彰式）

太宰府や平安京を始め全国の発掘に携わりその後金沢文庫を整備された、神奈川県金沢文庫長真鍋俊照氏が長年の功績に対して表彰を受けました。

続いて議事に入り、平成11年度事業計画及び予算（案）等について提案があり原案どおり承認されました。また、平成12年度の開催県は神奈川と決まりました。

（講演）

「武田信玄人気の秘密」と題して信州大学教授・笹本正治氏から講演がありました。なぜ信玄は山梨県人からいまだに「信玄公」と呼び親しまれているか、また、なぜそれに反し長野県北部、群馬県の住人からは侵略を繰り返す暴虐な大将として嫌われるのかを、信玄の支配時代と信玄が登場する前の社会とを比較し、信玄の人気の秘密である公権力とそれまでの権力とは何処が違っていたのかを話されました。



講師の笹本教授

（施設見学）

山梨県立美術館
山梨県立文学館
山梨県立科学館

（岐阜県博物館 古川司朗）

第44回岐阜県博物館協会会員研修会報告

日時：平成11年9月9日(木)～10日(金)

会場：岐阜県美術館他3館

参加：19名

当協会第44回会員研修会は、「岐阜地区を例とした特色ある博物館活動」をテーマに、岐阜市内において以下の日程で開催された。

第1日目 9月9日(木)

●発表(於・岐阜県美術館)

- ・「美術品の保存・修復の課題」

岐阜県美術館学芸部長 古川秀昭氏

- ・「20世紀西洋の静物画」

岐阜県美術館学芸員 岡田 潔氏

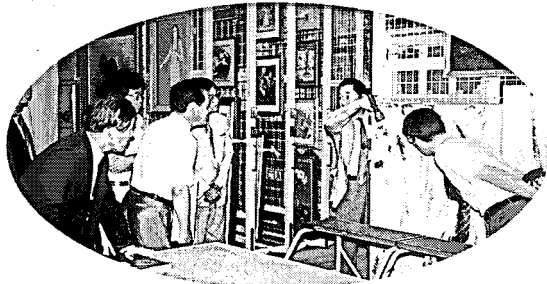
●見学研修

- ・美術館の収蔵品に関して、収蔵庫見学
- ・企画展「20世紀静物画の展開」見学

第2日目 9月10日(金)

●見学研修

- ・名和昆虫博物館
- ・岐阜市歴史博物館
- ・加藤栄三・東一記念美術館



岐阜県美術館にて

古川秀昭氏の発表では、多様な素材からなる美術作品の保存と修復について、現状と今後の対策等について事例を交えながら紹介があった。特に美術館で「形あるものはいずれ消えゆく」という摂理に対し、如何に「永久」へ近づけるかの検討について、受け入れ時の観察、将来に起こりうる問題に対しての大胆な予想の必要性が提示された。また、環境調査の例を通じ、現時点で最良の保存方法が定期的な作品チェックと虫干しである点が紹介され、従来行われてきた保存処理の人体・環境への負荷について考えさせられるものであった。岡田潔氏の発表は、開催中の企画展に

ちなんだもので、静物画が様々なイズム、スタイルを良く反映している点に注目し、それを通じて印象主義以降の絵画の革新、キュビズムからモダン化とリアリスティックの2つの潮流へ至る視覚の変貌について、スライドを交えながら説明された。その後、二人の発表をふまえて収蔵庫及び展示室で実際に資料の詳細を拝見させていただき、参加者一同、一層理解を深めることができた。

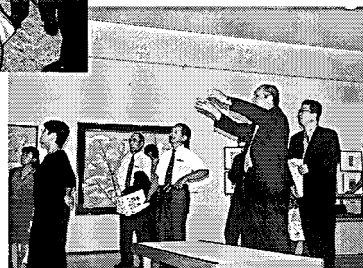
2日目は岐阜公園内に立地する3館を訪問し、見学研修を実施した。名和昆虫博物館では館長の名和秀雄氏等から、館の設立と活動、友の会「昆虫楽会」、特別展について説明を受け展示室を拝見した。名前からも楽しそうな昆虫楽会は、本年度29回の行事を予定するとともに、ミニコミ誌・会誌の発行など充実した活動内容であり、クイズを主体とした特別展とともに、参加体験型博物館活動を推進する好例であった。岐阜市歴史博物館では、主任の小野木義浩氏より常設展における学校見学時の対応について、ワークシートを中心に紹介があった。また、加藤栄三・東一記念美術館では、館長の熊崎勝利氏より館の設立と開催中の展覧会について、展示品を拝見しながらお話を伺った。名和秀雄氏をはじめ、いずれの講師の方々も観覧者を引きつける話術に長け、予定時刻を大幅に上回って終了した。今回は「特色ある博物館活動」がテーマであったが、それは単に展示だけで帰結するのでなく、展示と連動し有効に利用するツールの充実、そして何より

対応する担当者のホスピタリティの重要性が際だって認識された見学だった。



◀ 名和昆虫博物館にて

▶ 加藤栄三・東一記念美術館にて



(機関紙委員 岐阜市歴史博物館 大塚清史)

岐阜大学教育学部郷土博物館

〒506-1112 岐阜市柳戸1-1

(岐阜大学教育学部本館5階)

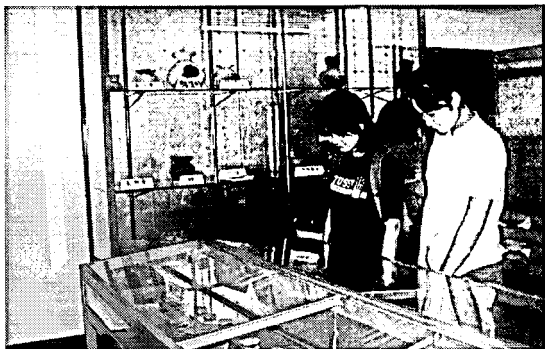
TEL058-230-1111 (代) 生涯教育事務室



第1收藏室

大学生で賑わう教育学部本館構内に研究目的のための郷土博物館があります。その設立は古く、昭和5年に岐阜県師範学校に対して文部省より郷土研究費が配当されたことに始まります。昭和30年に文部省告示により、博物館相当施設の指定も受けています。戦後、岐阜県師範学校は岐阜大学学芸学部になり、さらに教育学部となりました

博物館の所蔵品は岐阜県内より出土した考古学資料2,095点と県内の旧家に保管されていた近世文書28,012点、その他72点余りで構成されています。考古学資料は各時代にわたる出土品がありますが、5世紀の筒型器台や7世紀の皮袋型をした土器の瓶など、須恵器の優れたものが多いのが特色です。大半が戦前の旧師範学校時代に収集されたもので、考古学がまだごく少数の人々にしか知られていなかった時代の出土品です。近世資料は江戸



第1展示室 考古学資料の一部が展示されています。

時代に庄屋をしていた家に伝わった^{じかたもんじょ}地方文書など、戦後の農村におとずれた激動の時代に収集されたものを多く所蔵しています。

こうした所蔵資料の利用は収蔵庫に納められているものでも研究目的であれば誰でも自由に閲覧(展覧)することができます。古文書はすべて収蔵庫に保管してあるため、担当教官に希望する文書名を申請するなどの事前の申し込みが必要です。料金は無料ですが、閲覧した資料を使って論文などを作成する場合は博物館の所蔵資料を使用したこと明記することと掲載された出版物のコピーを提出することが条件です。



第2收藏室

利用者数は年間約120名とけっして多い人数ではありませんが、じっくりと調査を行う質の高い利用者が多く、他の大学の学生でも気軽に利用できる博物館です。もちろん考古学・古文書学・博物館学などの演習授業にも博物館が活用されています。

近年では、博物館学や社会教育学などの講座を開設して、学芸員資格取得課程を設置する大学が増えています。しかし日本では、諸外国と比較すると大学内に博物館を設置している大学は少ないようです。岐阜大学の永年にわたるこのような取組みは、日本における大学博物館の歩みや、今後の大学博物館のあり方を考えていく先駆的な施設だといえるでしょう。

【交通】岐阜駅からバス(岐阜大学行)で約30分

【開館時間】9時～17時(※事前予約が必要)

【休館】不定期

【入館料】無料

(機関紙委員 内藤記念くすり博物館 野尻佳与子)

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。